

1 ○ 中丹地域における高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生防止対策

2
3 中丹家畜保健衛生所

4 ○川崎晴華 折原詳

5 【はじめに】昨年11月から国内各地でHPAIの発生が相次ぎ、戸数・殺処分羽数が過去最
6 大規模となる中、家きん飼養羽数が約130万羽と府内の約6割を占める中丹地域で実施し
7 た発生予防対策を報告。【概要】①正確な情報の提供：発生状況や予防対策のポイント等
8 に関する衛生情報を農場や関係機関に計77回発信し注意喚起。②巡回指導の強化：HPAI
9 発生リスクの高い11～3月は、バイオセキュリティレベル向上指導のため、家きん100羽
10 以上飼養する19農場を毎月1回以上巡回。③緊急消毒：リスク期の消毒強化指導に加え、
11 12月15日以降は家伝法第30条に基づき全家きん飼養者82戸に計2,610袋の消石灰を配
12 布し緊急消毒を実施。④ため池対策：水鳥飛来を防止するため、農場周辺ため池5か所の
13 落水等を実施。⑤発生地域からの雛導入対応：搬出制限区域内孵卵場から延べ5回、計4
14 万羽の雛導入事例があり、導入時の車両消毒強化や疫学調査に加え、導入後1週間の臨床
15 検査と計71羽の死亡鶏簡易検査等を実施。対策についてのアンケート調査では、9割以上
16 が予防対策の効果を実感したと回答。【まとめ】当所は、市や警察等を含めた関係機関と
17 の連絡会議や防疫演習、検査手技に関する研修会等を毎年開催し万一の発生に備えている。
18 いっどこで発生してもおかしくない状況の中で、農場及び関係機関と連携して予防対策を
19 強化し、本病発生を防止できた。今後も本対策の継続と更なる強化に努める。